

日本山岳会 越後支部報

第 9 号

平成26年 1月31日
発行 日本山岳会越後支部
発行者 橋本 正巳
新潟県上越市とよば9番地
TEL・FAX 025-524-7215
広報委員長 本間 一人



私の一枚

新潟県の西端・糸魚川市に海谷山塊という小さな山域がある。標高は千五百メートル前後だが、特異な姿で人々を惹きつける。冬の海谷はどれも凜として気品があり大好きだが、特に烏帽子岳が気に入っている。

後藤 正弘 (上越市)

新年を迎えて

日本山岳会越後支部副支部長

遠 藤 家之進 正和

明けましておめでとうございます。会員各位におかれましては、佳き新年をお迎えることとお慶び申し上げます。橋本支部長体制で始動はじめて、はや一年を迎えることとなりました。副支部長を引き受けたものの、大変な役目を軽々に引き受けたことに気づかされました。

公益法人化となつて、二年目に入つております。初年度は、監事と云う立場で運営に携わり、越後支部という組織として、何をしなければならぬのか、何ができるのか、特色ある事業が出来るのか、種々検討しました。会員二〇〇名を超す組織の運営に加え、更に一般者を対象にした事業を盛り込み、運営することを課せられているのですから大変なことです。

辛い、事務局長を始め各委員長・役員の方々が積極的なアイデアを提案し、出来ることから実行してきています。

その一つに、トキめきHeart・にいがた出会いサポート事業として「山コンナT南葉山」を昨年十月、上越市の(株)上越情報プレスが中心となり南葉山で開催されましたが、当支部も協力支援し、上越地区在住の会員が協力しました。二十三歳〜三十九歳までの独身を対象にして実施したそうですが、大勢からの申し込みがあり、二十組に抑えるのに苦労したそうです。そのかいかがあつてか、八組のカップリングができただけで、めでたくゴールとなつてくれるのを期待したいですね。

山を歩く者として、山での出会いかからカップルが生まれれば、最高ではないでしょうか。それを機に、興味を覚えてくれるかも知れません。山を楽しむ、出会いの機会を多く設けること

は、まさに公益事業と考えますので今後共、この種の企画が各地区で持ち上がり、継続してくれたら喜ばしいことです。その時は、会員皆さんからのご協力をお願い申し上げます。また、精鋭的な登山とは別に、里山の中で、仲間と楽しむことも良いことではないかとのことで、事業委員会では新たな事業として公募登山行事計画をしており、スノートレッキング同好会やフォト・スケッチ同好会を立ち上げました。

参加したくとも、年齢・体調から、山行に参加が出来ない、もつと軽い山行を願っている会員も多くいるのではないかとこの意見もありました。

山でなくても山仲間として付き合い合える行事を計画することが、会員の為にもなるという思いで検討したものです。会員の皆さんが気軽に、自分のレベルで行事に参加していただけることを願っています。

いろんな人との出会いを楽しみ、個々の年輪を積み重ねることが、支部の活性化に繋がることと考えております。

実施案がまとまり次第、案内することとなりますので楽しみにしてください。

そんな思いを抱きながら、支部運営に携わりたいと考えておりますので、会員各位からの更なるご指導をお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

計報

日本山岳会越後支部名誉会員 藤井 信氏が一月十一日ご逝去されました。永年のご指導に感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

同好会募集

「越後スノートレッキング同好会」会員募集を左記の通り行いますので、必要事項を記載して、同好会事務局へ葉書かメールでお申し込み下さい。(発起人代表 田邊信行)

I 「越後スノートレッキング同好会」実施要項概要

- 1 名称 「越後スノートレッキング同好会」という。以下「同好会」という。
- 2 目的 気のいい仲間が集い、登り、下り、滑ることにより、楽しい交流と人格陶冶に努め、支部の発展に寄与する。
- 3 実施内容等 山スキーやスノーシュー、輪環等を使ったスノートレッキングを国内外で実施する、越後支部会員の同好会です。支部内五地区の分担は、当面、上越担当・後藤正弘、中越担当・吉田理一、下越・新潟・県外担当・田邊信行、事務局・桐生恒治が担当する。
- 4 スノートレッキングのあり方 会員の高齢化を意識した楽しむ計画とする。
 - ①スノートレッキングは、当面日帰り山行とし、山中泊は企画しない。
 - ②山行装備は、ビバーク等を意識したものを準備する。
 - ③宿泊での企画は、山行前又は山行後、旅館等での宿泊とする。
- 5 保険の取り扱い 山岳地域での遭難捜索等活動に有効な保険に加入している者の参加に限定する。

II 同好会参加希望者は、次の事項を連絡し、お申し込みください。

- 1 氏名、性別、生年月日及び申込時満年

齢、郵便番号と住所、自宅電話番号及び携帯番号、加入している山岳等保険名称(日本山岳会山岳保険や日山協山岳共済等)、留守家族等の氏名・連絡先、主にスキー、スノーシュー、輪環の別

III 申し込み取り纏めを平成二十六年二月十五日(土)、三月にスノートレッキングを実施する予定ですので、追って同好会会員に御連絡いたします。

田邊 信行

〒九五七〇〇五六
新潟県新発田市大栄町五一八一五
Eメール ncypt670@ybnag.jp

受賞者の紹介

支部会員の栄えある受賞を紹介します。

山田 智子氏 会員No.8623 旭日単光章
遠山 實氏 会員No.8441 藍綬褒章
田邊 信行氏 会員No.10786 環境大臣賞



新会員になって

伊豆野純也

山歴はまだ二十年少しで、皆様方が山を闊歩した歳月に比べれば甚だ恥ずかしいキャリアではありますが、この度入会を許された新会員として、諸先輩の貴重なアドバイスを頂ければ幸いです。

ベースは佐渡です。高い山はありませんが、花の植生に関しては自信を持って誇れます。しかし、未だ主ルート以外の組織だった登山道整備のシステムが無く、ボランティアによる道張りで維持している現状です。したがって山行では刃物必携、鑑賞半分、作業半分で、山頂での一杯を楽しみに週末至福の時を過ごしています。

最近では朱鷺関係の活動にも参加しており、生息地を山から里へ広げて遊び回っています。

大島 隆

なかなか本土の山に登る機会がありませんが、お誘い頂ければ幸いです。

今後とも宜しくお願い致します。

.....

経歴が殆どと言って良い程ありません。私の山行はブナの原生林が広がる源流にタープでゆったり泊まることを最良としています。もちろん人造物がない方が良いし、岩魚も少しは釣れたほうが良いし、酒も少し?はあったほうが楽しいし、気の合う仲間がいれば最高です。因みに今までのテント場の開けた清流と岩と空の風景はすべて鮮明に思い出すことができます。そんなすてきな場所を今後も大切にしていきたい。

そんなことで自然環境の保全にも少しは興味があります。文明社会に身を置くものとして、声高らかに「〇〇建設反対!」なんて過激なことは言いません。これからは自然に対しては少しでもローインパクトを心掛けていこうと考えています。こんな私ですがどうか宜しくお願い致します。

.....

滝沢 信子

高校一年生の夏休みに部活の先輩に誘われ尾瀬に行ったのが私と山との最初の係わりでした。夜行出の二泊三日のテント泊で当時の装備は重いものでした。十代の私にはとても辛い山旅でした。以来、山から遠ざかっていましたが、三十代後半から再び山に魅せられ夢中になり今日に至っています。

す。

昨年十二月に伝統と名譽ある日本山岳会に入会させて頂いても光榮に思いますが。これからは、先輩の方々の貴重な経験をお伺いしながら私の山人生を豊かにして、自然の素晴らしさを実感して行きたいと思ひます。

.....

佐藤 芳英

昨年四月に皆さんのお仲間に入れていただいた佐藤芳英です。会員番号は一五二四六です。よろしくお願ひします。

私が、山に登り始めてから、今年で四十五年程になります。この間、大した山登りはしていませんが、色々な人(山の仲間等)と出会い、山登りも仲間も一緒であったり、時には独りでと、それなりに楽しんで来ました。これからの山行きも、今までと少しも変わらなぬと思ひます。ただ年々、仲間がいなくなつて行きますので、独りで登る機会が多くなると思ひます。取り敢えずの目標は、冊子「新潟一〇〇名山」(新潟県山岳協会監修、新潟日報事業社発行)に載つてゐる山の全山登頂であります。三十七座残つてますが、幾つ登ることが出来るか分かりませんが、頑張りたいと思ひます。

下越山岳会 佐久間雅義

私も昔の山登りで、五頭山が終わつたら焼峰で、次が二王子岳に登つたら、飯豊という順序で越後の山に入りました。親父は小さい私を市民登山で二王子へ連れて行ってくださったので、多くは教えてくれませんでした。もつぱら下越の先輩諸氏に山を仕込まれました。おかげで、今年の正月三日に長男と一緒に先輩に恵まれ二王子岳山頂に立つことが出来ました。

幸いまだ多少の体力と知力は残つて居るようですので、今後とも心の望むままの山登りが出来れば幸いと思つております。宜しくご指導ください。

.....

中条山の会 石山 政雄

この度、五十嵐力氏、平田大六氏の大先輩の紹介を頂き、歴史と伝統ある貴山岳会に入会させて頂きました。六十歳代半ばの新人ですが、支部活動等に積極的に参加し、多くの方と出会い、多くの事を学んでいきたいと思ひますので宜しくお願ひ致します。

好きな山は飯豊山塊です。その中でも飯豊連峰の全容が展望できる机差岳が大好きで、年に幾度となく登つて居ます。昨今は、飯豊胎内の会(会長・五十嵐力

氏)に所属し、飯豊連峰胎内地域の避難小屋や関連施設の維持管理および登山道の保全整備等を行つて居ます。また昨年からは長年の夢であつた避難小屋(頼母木・門内)の管理人も経験することができ、いろいろな人との出会いを楽しんで居ます。

小林智明先輩の訃報を哀しむ

三留 仁

昨年の夏訪問した時すでに、体調は芳しく有りませんでした。気にはして居りましたが、暫く会う事を控えて居りました。どうしても気になり、十月十一日に弟さんに連絡致した処、「話す事は出来ないが、会つて遣つて下さい。」のご返事を頂き、近々お訪ねしたいと思つていた矢先、十月十三日訃報を頂きました。

すぐ伺わなかつた事が、今思えば、慙愧の念に堪えません。

小林さんとの出会いは昭和三十三年三月、東蒲山岳会主催の『棒掛山・かんじき登山』に、狭彩山岳会より佐藤一栄・小林智明・薄敬子氏三名の参加と記録にありませぬ。この御縁が人生の友となり、師匠と成つた事は私にとって幸せの一語に尽きます。小林先輩の功績は、越後支部委員を六年間、副支部長を八年間務められた他に、「越

後山岳」に紀行文・日本山嶽誌の序文の研究発表など会の運営と発展に尽力されました。私はその後、昭和三十六年三月の大日岳から、平成十七年四月の菅名岳に到る四十回程の山行に同行させて頂き、感謝の気持ちで一杯でなりません。

登山活動以外、阿賀町在住及び来遊の文人・墨客、拓本・漢詩の勉強などマルチな才能の持主でした。多忙の中、忘年会・新年会など一献の席を設けて下さる、温かいお葉書の一葉・一葉、今でも胸に染み入ります。

最後になりましたが先輩は、紀行文集・漢詩集の刊行を考えて居られたと記憶致しております。今になると、とても残念でなりません。長い間の闘病、本当にお疲れさまでした。そして先輩の子供のような笑顔、一生忘れません。素敵な旅を祈ります。

晩餐会の写真日付、12月14日に訂正してお詫びいたします

公益事業と山の日広報活動の一環として公募登山を計画します。
6月8日(日)と9月7日(日)を信越トレイル、10月5日(日)銀の道を計画しています。
会員の皆様の協力をお願いいたします。
事業委員会 小山 一夫

玄翁碑と 二百名山の完登を終えて

豊島 立山 (No.六二二九)

今夏八月十日胎内口から足の松尾根、大石山、杵差岳、大先輩の藤島玄太郎さんの玄翁碑を訪ずれた。暗い乳白色に広がる稜線、よく手入れがされた登山道、笹の枯葉を踏みながら感謝しつつ、峰々を越えた。海外の登山を除いた私の近況の一部を書いてみたい。

平成十四年(二〇〇二)七月三日、富士山登山から深田百名山、二百名山は杵差岳の頂上を登って完登した。併行している三百名山も九月二十九日、谷川朝日岳を土合橋駐車場からピストンで日帰りしたが、天候に恵まれ素晴らしい二四十二名山の山行であった。

余談であるがこれも当時京都大学長になられた今西錦司先生との数回の山行、図書、文献の影響から進展したものでした。

さて、久振りの飯豊連峰縦走路に出ると大石山からは流石に北よりの強風が濃い霧を伴って、山の斜面は浅草がなびいている。瞬間吹き飛ばされそうになり乍ら、霧の水滴、天の粒を肺の奥深くまで吸い込む。鉾立峰から下って玄翁碑は左手の草のなかにある。直ぐ杵差岳に向い杵差小屋を通り、強風と霧の頂上に立った。

祠と石塔物も狭い山頂もなつかしかったが木柱の杵差岳の頂標は朽ちて風に耐えていた。「杵差岳」の頂標の設置を立派なものでなくともよいが望むものである。

風が弱くなり杵差小屋に戻ると、丸い小さなピークが一瞬見えてまた消えてしまう。

下山時玄翁碑に立寄った。酒を添え過ぎ過ぎし日々を連想し一杯飲み交しながら、記念の撮影をした。草木の周囲には大勢の岳人、旧友が顔を出して祝福しているようだった。

私はこの秋後期高齢と言う人生の物差しを突きつけられた。今迄年齢をあまり意識していなかったの少し淋しい気分だが、三百名山と全国の山岳、ふるさとの足跡を再トレースしたと思っている。ごきげんよう!!



事務局連絡

平成二十五年度支部会費納入について

再度のお願い

今年度支部会費(一、〇〇〇円)納入のお願いをしておりますが、十二月二十五日現在で十四名の方がまだ未納となっております。後日未納会員には、直接振込み依頼状を再度郵送させていただきますが、支部活動の運営を円滑に進めるため、至急納入にご協力をお願いします。郵便局振込用紙を送付してありますが、紛失された方は別記の郵便振替口座に入金していただくようお願いいたします。尚、振込み手数料(二二〇円)は、各自ご負担願います。

郵便振込口座

〇〇五二〇一六一九七七九九
公益社団法人日本山岳会越後支部

越後支部会員の勧誘と加入に協力願います

今年度越後支部では、「新入会員の加入・勧誘運動の強化に取り組み、十人以上の新入会員獲得を目指す。」と本部に公言しております。現在八名の新入会員と二名の入会申込申請中ですが、更なる会員増加のために、支部会員の皆様のお力をお借りしたいと思っております。

支部会員移動連絡

(二〇一三年八月十一日)

〇二〇一三年十二月二十五日

1. 物故会員

小林 智明 (No.4046)

二〇一三年十月十一日

梁取 静五 (No.8592)

二〇一三年十一月

2. 新入会員

①大島 隆 (No.15377)

〒九四二一〇七四四

上越市頸城区松本一五五

TEL: 〇二五五五四四一八三六四

②石山 政雄 (No.15390)

〒九五九一二六五九

胎内市あかね町一五五

TEL: 〇二五四四三二四六四二

③佐々木礼子 (No.15417)

〒九四七二〇〇三四

小千谷市両津田二四九

TEL: 〇二五八八二二二二五

④伊豆野純也 (No.15431)

〒九五二一〇〇一四

佐渡市両津湊二二二

TEL: 〇二五九二二二一〇一〇一

3. 入会申込申請中

①滝沢 信子

〒九五九一七〇一

五泉市石曾根六〇〇四一

TEL: 〇二五〇一五八一三五六二

②佐久間雅義

〒九五九一〇〇五五

新発田市諏訪町二二二

TEL: 〇二五四二二二二二二二

4. 支部会員総数

二〇一三年八月十日現在

支部員総数二二八名、入会申込申請中二名

編集後記

広報委員長 本間 一人

今年一年を振り返るといろいろな事があり、出会いと別れは世の中の常というべきであろうが、それにしても大勢の大先輩を失ったことは、大きな穴がぽっかり開いたような気がしてならない。そして新年早々の藤井信氏の訃報は大ショックというほか無い。

先人の功績を称えようと同時に教えるにたい、意思を継いでいくことが諸先輩に伝えることと思う。幸い昨年は六名の新入会員が新たに加わった。早速新人としての抱負を当支部報に原稿をお寄せ願ったところだが、新人とはいえ日本山岳会に新加入される方はいわゆるベテラン中のベテランで、新潟県の登山界の指導的な方々で支部の新陳代謝には欠くべからざる人材とおもっている。そして、前述のように三人の方々の受賞は永年新潟の地に自然保護や登山史に多大な功績を残され、闇雲に登るピークハントでなく、登山としての精神性とか文化というもつと深いものを追求されたもので、これからの登山の方向性というものが示されている感がある。